

総合医学 : 633-4-DP1・DP3・DP4・DP5

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	*丹羽 秀夫 (脳神経・頭頸部外科学)

学修目標 (G I O) と 単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数: 12単位 ・学修目標 (G I O) : 歯科診療において全般的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
	<p>平常試験によって評価点 (100%) とする。 総合医学に含まれる各科目は追試験は行うが、原則として再試験は行わない。 成績評価は含まれる各科目の授業時間に応じた重み付けを行い、総合医学全体として評価点を出す。 60点以上を合格とする。</p> <p>【外科系】 学期末に行う平常試験(100%)によって評価点とする。 【頭蓋・顔面・頭頸部外科系】 平常試験により評価する。学習状況により減点がある。積極的な授業参加(質疑応答)で評価することがある。予告のない試験を行うことがある。 【有病者歯科検査医学系】 1.出席カード9時00分に配布 2.全員に出席カード配布終了後の入室は欠席とする。 3.欠席者は翌週の授業までに欠席届を提出すること (2階歯科臨床検査医学医局) 4.毎授業前に小テストを行う。 5.小テストの合格ラインは80%とする。合格ラインに達しない場合はその週の土曜日に再試験 (合格ライン80%) を実施する。再試験にて合格ラインに達しない場合は当日に再度の試験を実施する。再試験を正当な理由なく欠席した場合は最終評価点を上限60点とする。また正当な理由のない2回目以降の再試験欠席は最終評価点の上限を11点づつ減じる。 例) 再試験1回欠席 最終成績上限60点、2回欠席 最終成績上限49点、3回欠席 最終成績上限38点、4回欠席 最終成績上限 27点 6.最終成績判定 平常試験 (40%) + 中間試験 (40%) + 小テスト・履修態度 (20%) * : 正当な理由なく授業を1/5以上欠席した場合は評価点上限を60点とする。 履修態度の中には服装・髪型なども含む。</p> <p>【内科系】 平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。 【隣接医学系】 医療行動科学4の【後期】の評価方法に準ずる。</p>

外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	後学期	*丹羽 秀夫 (脳神経・頭頸部外科学)

学修ユニット 学修目標 (G I O)	<p>単位数: 2単位</p> <p>学修目標(GIO): 歯科診療を行う上で必要となる外科学の知識を習得する。</p>
担当教員	*丹羽 秀夫、*野本 たかと、*遠藤 真美、*秦 光賢、原野 英、*中山 壽之、※畠中 康晴、丹羽 悠介、※藤田 英樹
教科書	標準外科学 加藤ら 医学書院 標準皮膚科学 富田ら 医学書院 よくわかる摂食・嚥下のしくみ 山田好秋 医歯薬出版
評価方法 (E V)	学期末に行う平常試験(100%)によって評価点とする。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/10 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1 外科学概論 近代外科学の発展 基本的外科手技	<p>【授業の一般目標】 広義の外科の一分野としての歯科を理解する。 近代外科学の進歩を理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 外科学が発展してきた要因を説明できる。 3. 外科手術に用いる器械・器具を理解し、切開縫合・止血法の基本を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 : 歯科学の歴史 事前学修時間 : 30分 事後学修項目 : 授業時配布資料のレビュー</p>	*中山 壽之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/10 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系 1 外科学概論 近代外科学の発展 基本的外科手技	<p>事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 d 止血法、縫合法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p>	*中山 壽之
2025/09/24 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系 2 ショック 救急蘇生法	<p>【授業の一般目標】 ショックを説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. ショックの定義と症状、分類を説明できる。 3. ショックに対し救急蘇生法ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血圧、循環、呼吸について。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ①歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。</p>	原野 英
2025/10/01 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系 3 免疫	<p>【授業の一般目標】 免疫に関する臓器・細胞について説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 免疫に関する臓器・細胞について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：免疫について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 g 免疫系（免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫）</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	畠中 康晴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/01 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系3 免疫	C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑦粘膜免疫を説明できる。	畠中 康晴
2025/10/08 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系4 皮膚疾患 総論・各論 1	【授業の一般目標】 皮膚の解剖を説明できる。 発疹学を説明できる。 【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な発疹疾患を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：皮膚の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織〔上皮組織、結合〔支持〕組織（血液を含む）、筋組織、神経組織〕 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (1) 上皮組織と皮膚・粘膜系 ①上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 ②皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。 ③腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。	藤田 英樹
2025/10/22 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系5 消毒法・滅菌法・ 清潔操作・損傷・ 炎症	【授業の一般目標】 無菌法・滅菌法を通じ、手術における感染防止の重要性を理解する。 損傷・炎症の分類・病態・治療法について基本的概念を理解する。 創傷治癒のメカニズムを理解する。 【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 各種消毒法を説明できる 3. 滅菌法を説明できる 4. 損傷、炎症を説明できる 5. 創傷治癒を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：外科総論の該当部分を通読。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 エ 消毒・滅菌と感染対策 a 消毒・滅菌法 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-3) 修復と再生 ④創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。 ⑧器具の消毒・滅菌法を説明できる。	原野 英
2025/10/29 (水)	外科系 6	【授業の一般目標】	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
1時限 09:00～10:30	腫瘍、抗腫瘍剤	<p>腫瘍について基本的概念を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 良性・悪性の鑑別点を説明できる 3. 抗腫瘍剤の作用機序・使用法・副作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：腫瘍の定義 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 肿瘍・腫瘍類似疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 肿瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎頸面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎頸面領域の疾患 E-2-4) - (6) 肿瘍及び腫瘍類似疾患 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	*丹羽 秀夫
2025/11/05 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系7 消化管 総論	<p>【授業の一般目標】 消化管の解剖、病態について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 誤飲、誤嚥を説明できる。 3. 気管・食道の異物について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：気管・消化管の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 ハ 消化器</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。</p>	*中山 壽之
2025/11/12 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系8 甲状腺・リンパ腺・乳腺	<p>【授業の一般目標】 歯科学領域で遭遇頻度の高い頭頸部疾患を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な甲状腺疾患を説明できる。 3. 代表的な乳腺疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：甲状腺、乳腺の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー</p>	*中山 壽之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/12 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系8 甲状腺・リンパ腺・ 乳腺	<p>事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌・代謝・栄養</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ②腫瘍の病因を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*中山 壽之
2025/11/19 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系9 急性腹症	<p>【授業の一般目標】 急性腹症とは何かを説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な急性腹症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：腹腔の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	畠中 康晴
2025/11/26 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系10 消化管疾患	<p>【授業の一般目標】 食道・胃・小腸・大腸の臨床解剖と疾患を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 代表的な食道疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：消化管の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能</p>	*中山 壽之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/26 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1 0 消化管疾患	<p>e 器官系【骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覺器系】</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	*中山 壽之
2025/12/03 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1 1 肝・胆・脾・腎	<p>【授業の一般目標】 肝胆脾腎の解剖を理解する。 肝胆脾腎疾患の診断と治療法を説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 肝臓・胆嚢・脾臓・腎臓の疾患を理解し、診断と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：肝胆脾腎の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	*中山 壽之
2025/12/10 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1 2 皮膚疾患 各論2	<p>【授業の一般目標】 口腔に見られる皮膚粘膜疾患が説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 天疱瘡を説明できる 3. 単純ヘルペスを説明できる。 4. 口腔カンジダ症を説明できる。 5. 扁平苔癬を説明できる。 6. 口腔アレルギー症候群を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔粘膜の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 m 口腔粘膜疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p>	丹羽 悠介

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/10（水） 1時限 09:00～10:30	外科系1 2 皮膚疾患 各論 2	①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。	丹羽 悠介
2025/12/17（水） 1時限 09:00～10:30	外科系1 3 摂食嚥下リハビリ テーション 1	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下障害の診断ができるために診査法および検査法を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 摂食・嚥下機能障害の診査法および検査法を説明できる。 3. 摂食・嚥下機能障害の診断を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：嚥下障害 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎頬面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎頬面領域の疾患 E-2-4) - (1.1) 口腔・顎頬面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*遠藤 真美
2025/12/24（水） 1時限 09:00～10:30	外科系1 4 摂食嚥下リハビリ テーション 2	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下リハビリテーションができるよう訓練法を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 間接訓練法と直接訓練法について説明できる。 3. 嚥下障害と誤嚥性肺炎について説明できる。 4. 嚥下障害と栄養について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：リハビリテーション 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎頬面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎頬面領域の疾患 E-2-4) - (1.1) 口腔・顎頬面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-2) 患者中心の視点 ①患者の権利を説明できる。 ②患者の自己決定権を説明できる。 ③患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。 ④インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。</p>	*遠藤 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/24 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1_4 摂食嚥下リハビリ テーション2	A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ①歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。	*遠藤 真美
2026/01/14 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1_5 摂食嚥下リハビリ テーション3	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下機能を理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 1. 摂食・嚥下機能の発達を説明できる。 3. 2. 嚥下の機序について説明できる。 4. 3. 嚥下動作にかかる解剖・生理を説明できる。 5. 4. 摂食・嚥下機能障害を併存する疾患を述べられる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：頭頸部の解剖 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 6 リハビリテーション ア リハビリテーションの概念</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎頬面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。 E-2-4) 口腔・顎頬面領域の疾患 E-2-4) - (1 1) 口腔・顎頬面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。</p>	*野本 たかと
2026/01/21 (水) 1時限 09:00~10:30	外科系1_6 平常試験・解説講義	<p>【授業の一般目標】 客観問題を中心に出題する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 多肢選択問題に解答する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：総合医学外科系 事前学修時間：2時間 事後学修項目：回答の確認 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (L S)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*丹羽 秀夫 *中山 義之 原野 英

頭蓋・顔面・頭頸部外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	後学期	*丹羽 秀夫 (脳神経・頭頸部外科学)

学修ユニット 学修目標 (G I O)	単位数：2単位 歯科・口腔外科医学と不可分な領域である耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、機能修復・温存に必須の形成外科学、疼痛医学を学習する。
担当教員	*丹羽 秀夫、*小見山 道、※久保 英之、※樋村 勉、*飯田 崇、宮下 采子、原野 英
教科書	標準耳鼻咽喉科学 鈴木ら 医学書院 口腔顔面痛の診断と治療ハンドブック 日本口腔顔面痛学会 医歯薬出版
評価方法 (E V)	平常試験により評価する。学習状況により減点することがある。積極的な授業参加(質疑応答)で評価することがある。予告のない試験を行うことがある。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/08 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系1 耳鼻咽喉科学総論 解剖・生理・機能	<p>【授業の一般目標】 耳鼻咽喉科学が歯科医学においてどのような位置づけにあるのかを理解し、解剖、生理について説明できる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 耳鼻咽喉科領域の解剖を説明できる 3. 耳鼻咽喉科領域の生理を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器、鼻腔、副鼻腔、咽頭喉頭の解剖と生理が説明できる。 事前学修項目：耳鼻咽喉科解剖、生理 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニツッペーパー</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 ア 頭頸部の部位</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ①頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。 ④頭頸部の脈管系を説明できる。 ⑪咽頭と喉頭の構造と機能を説明できる。 ⑫扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2025/09/17 (水) 1時限 09:00～10:30	頭蓋・顔面・頭頸部外科系 2 頭部顔面外傷・総論	<p>【授業の一般目標】 頭部顔面外傷の総論を説明できる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭蓋顔面外傷に必要な解剖を説明できる 3. 頭蓋顔面外傷の特殊性、特徴を説明できる 4. 頭蓋顔面外傷の初期診断、初期治療を説明できる 5. 頭蓋顔面外傷の徵候と診断を説明できる 6. 頭蓋顔面外傷の治療を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 事前学修項目：頭頸部顔面外傷総論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本</p>	原野 英 *丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/17 (水) 1時限 09:00~10:30	頭蓋・顔面・頭頸部外科系 2 頭部顔面外傷・総論	<p>イ 基本手技 a 視診、触診、打診、聴診</p> <p>【コアカリキュラム】 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 ③頭頸部の状態の診察ができる（視診、触診、打診、聴診、温度診）。</p>	原野 英 *丹羽 秀夫
2025/09/22 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 3 耳科学総論	<p>【授業の一般目標】 耳の臨床解剖・機能を説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 聴器、平衡器の臨床解剖、生理を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器の解剖生理を説明できる。 事前学修項目：耳科学 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。</p>	* 丹羽 秀夫
2025/09/29 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 4 疼痛学総論	<p>【授業の一般目標】 疼痛学の基礎を説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔・顎・顔面・頭部の痛覚伝導路を説明できる 3. 口腔・顎・顔面・頭部の筋支配を説明できる 4. 痛みの定義、意義、機能を説明できる 5. 痛みの分類を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 口腔・顎・顔面・頭部の知覚と運動の解剖生理を説明できる。 事前学修項目： 痛み一般 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 a 一般的の症候〔疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常（硬さ、熱感を含む）、機能障害（開口障害を含む）〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。 ⑤脳血管の構造と分布及び機能的特徴を説明できる。</p>	* 小見山 道 * 飯田 崇
2025/10/06 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 7 鼻科学各論 咽喉頭科学総論各論	<p>【授業の一般目標】 鼻科領域において歯科医学と関連の深い検査法・診断・治療を説明できる。 咽頭・喉頭の解剖・機能を説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】</p>	* 丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/06 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 7 鼻科学各論 咽喉頭科学総論各論	<p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 副鼻腔炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 3. 咽喉頭疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鼻腔、副鼻腔の解剖と生理を説明できる。 事前学修項目：鼻副鼻腔疾患 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニツツペーパー</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 イ 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覺器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2025/10/15 (水) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 6 口腔顔面痛 1 頭部・顔面領域の慢性疼痛	<p>【授業の一般目標】 口腔・頸・顔面領域に発生する非歯原性歯痛に対応できるようになるために、各種原因疾患の病態、診査に関する基本的知識を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 筋・筋膜痛による関連痛の病態を説明できる。 3. 带状疱疹後神経痛、三叉神経痛、舌咽神経痛の病態を説明できる。 4. 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛の病態を説明できる。 5. 三叉神経ニューロパシーの病態を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛の基礎医学を説明できる。 疼痛の臨床的意味を説明できる。 事前学修項目：慢性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 a 一般的症候〔疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常（硬さ、熱感を含む）、機能障害（開口障害を含む）〕</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	*小見山 道 *飯田 崇
2025/10/20 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 5 口腔顔面痛 2	<p>【授業の一般目標】 口腔・頸・顔面領域に発生する非歯原性歯痛に対応できるようになるために、各種原因疾患の治療計画に関する基本的知識を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 筋・筋膜痛による関連痛への治療計画を説明できる。 3. 带状疱疹後神経痛、三叉神経痛、舌咽神経痛への治療計画を説明できる。 4. 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛への治療計画を説明できる。 5. 三叉神経ニューロパシーへの治療計画を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 非歯原性歯痛の原因疾患と対応法について調べる。 事前学修項目：頸関節症、神経障害性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p>	*小見山 道 *飯田 崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/20（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系5 口腔顔面痛2	<p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 カ 顎関節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ⑪口腔・顎顔面領域の慢性の痛みの原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	* 小見山 道 * 飯田 崇
2025/10/27（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系8 形成外科総論・顎顔面領域の形成外科総論	<p>【授業の一般目標】 形成外科の理念・方法論を理解する。 顎顔面領域で関わる形成外科の疾患を説明できる。 顎顔面領域における歯科ならびに形成外科学的審美学を理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 形成外科を定義できる 3. 形成外科の対象となる顎顔面領域の先天異常、外傷、組織欠損、再生医療について説明できる 4. 顎顔面領域における審美学を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 皮膚の組織、創傷の治癒を説明できる。 事前学修項目：形成外科総論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 b 頭蓋骨（顔面骨を含む）の成長の特徴（成長の時期、骨形成様式）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	宮下 采子
2025/11/04（火） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系9 形成外科学各論1 口唇裂・口蓋裂	<p>【授業の一般目標】 口唇裂、口蓋裂を説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口唇裂、口蓋裂を定義できる 3. 口唇裂、口蓋裂の分類、疫学、病態、合併症、解剖、治療計画、手術について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 顔面の発生学と臨床解剖を説明できる。 事前学修項目：口蓋裂、口唇裂 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論I 成長・発育に関連した疾患・病態 1 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常の病態・特徴 ア 口腔・顎顔面の先天異常 b 口唇裂・口蓋裂</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学</p>	樫村 勉

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/04 (火) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系9 形成外科学各論1 口唇裂・口蓋裂	E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	樺村 勉
2025/11/10 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 10 口腔顔面痛 3	【授業の一般目標】 口腔・顎・顔面領域に発生する非歯原性歯痛に対応できるようになるために、各種原因疾患の審査、診断、治療計画に関する基本的知識を理解する。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 非歯原性疼痛の鑑別診断を説明できる。 3. その他の原因による非歯原性歯痛の鑑別診断を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛学総論、疼痛学各論1、疼痛学各論2の内容。 事前学修項目：慢性疼痛 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IV 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 カ 顎関節 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。	*内田 貴之 *小見山 道 *飯田 崇
2025/11/17 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 11 顎顔面領域の神経疾患	【授業の一般目標】 顎顔面領域の神経支配を説明できる。 神経疾患による顎顔面領域の症状・病態・診断について説明できる。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顔面けいれん、口腔ジスキネジーについて説明できる。 3. 顔面神経麻痺、Ramsay Hunt症候群について説明できる。 4. 三叉神経麻痺、舌神経麻痺、舌下神経麻痺について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 頭部、顔面、口腔、頸部の解剖、生理について説明できる。 けいれん、不随意運動、てんかんを定義できる。 事前学修項目：顔面神経麻痺、三叉神経痛等 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経・運動器疾患の病態・診断・治療 a 三叉神経痛 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺（感觉麻痺、運動麻痺）の原因、症状及び治療法を説明できる。	原野 英
2025/12/01 (月) 1時限 09:00~10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系 12 耳科学各論 めまい・平衡機能	【授業の一般目標】 平衡器官とその疾患について検査・診断・治療法を理解する。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. メニエール病、突発性難聴について説明できる。 3. 良性発作性頭位眩晕症、前庭神経炎について説明できる。	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/01（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系1_2 耳科学各論 めまい・平衡機能	<p>4. 聴力検査、他覚聴力検査について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 平衡器の解剖生理について説明できる。 事前学修項目：平衡機能、難聴 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2025/12/08（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系1_3 形成外科学各論 2 顔面頭頸部の形成再建外科	<p>【授業の一般目標】 顔面頭頸部形成再建術に必要な解剖・術式・合併症を説明できる。 顔面頭頸部領域で関わる形成外科的知識を説明できる。 再建外科に必要な皮膚移植（組織移植）について説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 自家組織移植による再建について説明できる。 3. 植皮術と皮弁について説明できる。 4. 顔面頭頸部再建術を説明できる。 5. 口腔、中咽頭再建術を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 皮弁の作成と創の形成を説明できる。 事前学修項目：再建外科 皮膚移植等 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 g 移植術、再建手術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ⑤軟組織損傷の分類、症状及び処置法を説明できる。</p>	樺村 勉
2025/12/15（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系1_4 頭頸部腫瘍学	<p>【授業の一般目標】 頭頸部腫瘍、頸部郭清術について説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頸部腫瘍の診断、治療を説明できる。 3. 頸部郭清術の解剖、術式、合併症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頸部の解剖について説明できる。 唾液腺の解剖と生理を説明できる。 事前学修項目：頭頸部腫瘍、頸部郭清術 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p>	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/15（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系14 頭頸部腫瘍学	<p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍・腫瘍類似疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2025/12/22（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系15 頭部顔面外傷各論	<p>【授業の一般目標】 頭蓋顔面外傷の各病型の診断治療を説明できる</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭蓋骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 3. 眼科骨折の分類・診断・治療を説明できる。 4. 頸骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 5. 上顎Le Fort 骨折の分類・診断・治療を説明できる。 6. 下顎骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋・顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 頭部・顔面外傷の総論が説明できる。 事前学修項目：顔面外傷各論 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料のレビュー 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 i 外傷</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ③歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤軟組織損傷の分類、症状及び処置法を説明できる。</p>	原野 英
2026/01/19（月） 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系16 平常試験・解説講義	<p>【授業の一般目標】 客観問題による試験。 事前学修項目：試験範囲 事前学修時間：30分 事後学修項目：試験の解説 事後学修時間：15分</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 授業の知識習得を確認できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋・顔面・頭頸部外科系授業内容の復習。試験への準備。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*丹羽 秀夫 原野 英

有病者歯科検査医学系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	前学期	*福本 雅彦(有病者歯科検査医学)

学修ユニット 学修目標 (G I O)	口腔・全身の状態を把握するために必要な検査を理解し身につける
担当教員	*福本 雅彦、*深津 晶、*渕上 真奈、*小峯 千明、*牧村 英樹、*小西 賀美、*田中 陽子
教科書	特定の教科書はありません 特定の教科書はありません 特定の教科書はありません
参考図書	授業の際に参考資料を配布します 授業の際に参考資料を配布します 授業の際に参考資料を配布します
評価方法 (E V)	中間試験、平常試験、授業の際に出された課題の評価点により評価する。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/10 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 総論 1) 臨床検査とは 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の基準値 4) 検査の安全性	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2) 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。 3) 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。 4) 歯科診療における臨床検査の重要性を理解し説明できる。 5) 検体検査・生体検査とは何かを説明できる。 6) 基準値の範囲を説明できる。 7) 検査の安全性を説明できる。 8) 歯科医師国家試験において基準値を理解するべき項目を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：基礎医学科目を理解する。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 ウ 基準値と結果の解釈 a 基準範囲の概念</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 ウ 基準値と結果の解釈 b 生理的変動、異常値と原因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*福本 雅彦 *深津 晶 *續橋 治 *牧村 英樹
2025/04/17 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学2 1) 血液型 2) 臨床検査の種類 3) 尿検査 一般検査 尿検査 血圧測定法	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2) 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。 3) 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。 4) 腎臓の形態、尿、尿検査の利点欠点を説明できる。 5) 尿一般検査、尿化学的検査、尿形態学的検査の項目と臨床的意義について説明できる。 6) 尿検査の異常から疑われる疾患について説明できる。 7) 血圧測定法を理解し説明できる。 	*福本 雅彦 *深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/17 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学2 1) 血液型 2) 臨床検査の種類 3) 尿検査 一般検査 尿検査 血圧測定法	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：基礎医学科目を理解する。解剖学的・組織学的な腎臓の特徴を説明できる。代謝についてを説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 ウ 基準値と結果の解釈 a 基準範囲の概念</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 a 一般臨床検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*福本 雅彦 *深津 晶
2025/04/24 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学3 血液 1) 血液の組成と役割 2) 採血法 3) 試料の取り扱い 血液疾患（1）貧血① 1) 貫血とは 2) 貫血の分類 3) 貫血の検査	<p>【授業の一般目標】 血液の組成と役割を理解できる。 採血方法と検体管理方法を理解できる。 貧血について理解できる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 血液成分について理解し説明できる 3. 採血方法を説明できる 4. 貫血の定義を理解し説明できる 5. 貫血の一般症状について理解し説明できる 6. 貫血の分類を理解し説明できる 7. 採血のリスクを理解し説明できる。 8. 採血時の検査に与える影響を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：血球成分（赤血球、白血球、血小板）、血清成分の働きを説明できる。静脈の位置を説明できる。赤血球の働きについて説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本</p>	*深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/24 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学3 血液 1) 血液の組成と役割 2) 採血法 3) 試料の取り扱い 血液疾患 (1) 貧血① 1) 貧血とは 2) 貧血の分類 3) 貧血の検査	E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	*深津 晶
2025/05/01 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学4 血液疾患 (2) 貧血② 4) 各種貧血について 5) 貧血患者の歯科治療における対応について	【授業の一般目標】 貧血について理解できる。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 代表的な貧血とその特徴を理解し説明できる。 3. 貧血患者の歯科治療の対応について理解し説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：血液の働き、貧血の検査を説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 頸・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 E 臨床医学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。	*深津 晶
2025/05/15 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学5 出血性素因① 1) 出血性素因とは 2) 出血性素因の分類	【授業の一般目標】 出血性素因について理解できる。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 止血機序を説明できる。 3. 血液凝固因子の種類および働きを説明できる。 4. 血液凝固の機序を説明できる。 5. 出血性素因の定義および原因を説明でき、原因別に分類することができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：血液の働き、特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 頸・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点	*深津 晶 *小峯 千明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/05/15 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学5 出血性素因① 1) 出血性素因とは 2) 出血性素因の分類	<p>療、歯科治療時の留意点</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害</p> <p>②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。</p> <p>E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*深津 晶 *小峯 千明
2025/05/22 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学6 血液疾患（2）出血性素因② 3) 出血性素因の検査 4) 出血に対する歯科診療時の対応	<p>【授業の一般目標】 出血性素因について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 出血性素因を原因別に調べる検査項目および検査意義を説明できる 3. 代表的な出血性素因とその特徴を理解し説明できる 4. 出血性素因患者の歯科診療の対応について理解し説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：血液の働き特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎頸面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎頸面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口腔・顎頸面領域に症状を現す疾患 ①口腔・顎頸面領域に症状を現す血液疾患（貧血、出血性素因、白血病）とスクリーニング検査法を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*深津 晶 *小峯 千明
2025/05/29 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学7 糖尿病 糖尿病と歯科診療	<p>【授業の一般目標】 糖尿病について理解できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 糖尿病の定義を説明できる。 3. インスリンの働きを説明できる 4. 糖尿病の種類と特徴を説明できる。 5. 糖尿病の症状（全身、口腔）および合併症（慢性、急性）を説明できる 6. 糖尿病を調べる検査項目を理解し、その基準値を述べることができる。 7. 糖尿病患者へ歯科治療を行う際の注意点を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：人体に必要なエネルギーについて説明できる。栄養の代謝特に糖代謝について説明できる ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	*深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/05/29 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学7 糖尿病 糖尿病と歯科診療	<p>歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 口腔症状を呈する内分泌障害、代謝障害 i 糖尿病</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*深津 晶
2025/06/05 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学8 中間テスト	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容の理解度を評価するため中間テストを実施する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. これまでの講義内容を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約5時間 ・事後学修項目：試験に出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p>	*福本 雅彦 *深津 晶 *續橋 治 *牧村 英樹 *田中 陽子
2025/06/12 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学9 造血器疾患・腎疾患	<p>【授業の一般目標】 造血器疾患を理解できる。 腎疾患と検査を関連付けられるようになる。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 腎臓の機能、主な腎疾患・泌尿器疾患、腎不全、全身疾患や薬剤による腎障害を説明できる。 3. 造血器疾患を列挙できる。 4. 急性骨髓性白血病の臨床病態を述べることができる。 5. 急性リンパ性白血病の臨床病態を述べることができる。 6. 慢性骨髓性白血病の臨床病態を述べることができる。 7. 癌遺伝子・癌抑制遺伝子の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：腎臓の解剖、生理機能および腎機能検査について説明できる。人体における白血球の働きを説明することができる。人体における白血球の基準値を列挙できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 i 代謝性疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。</p>	*福本 雅彦 *牧村 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/06/12 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学9 造血器疾患・腎疾患	<p>③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑥診断に必要な検査を列挙できる。 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-2 口腔・顎頬面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎頬面領域の疾患 E-2-4) - (1.0) 口腔・顎頬面領域に症状を現す疾患 ①口腔・顎頬面領域に症状を現す血液疾患（貧血、出血性素因、白血病）とスクリーニング検査法を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*福本 雅彦 *牧村 英樹
2025/06/19 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学10 肝臓の機能と検査	<p>【授業の一般目標】 肝臓の働き・検査を理解できる 肝疾患について説明できる</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 肝臓の働きを説明できる 3. 肝機能検査について理解し、検査の意義を説明できる 4. 各種検査から疑われる肝臓の異常を説明できる 5. 急性・慢性肝炎、肝硬変について説明できる 6. 肝疾患が及ぼす歯科治療への影響について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：肝臓の解剖学的、組織学的特徴を説明できる。栄養の代謝を説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 c 消化器疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*深津 晶 *田中 陽子
2025/06/26 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学11 感染症 1 / 3	<p>【授業の一般目標】 感染症について理解する。 院内感染対策について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 主な細菌感染症について説明できる。 3. 主なウイルス感染症について説明できる。 4. 院内感染対策について説明できる。 5. HIV感染症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 主なウイルス感染症について説明できる。 主な細菌感染症について説明できる。 院内感染対策について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	*續橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/06/26 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 1 感染症 1 / 3	<p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 頸・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 a ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。</p>	*續橋 治
2025/07/03 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 2 感染症 2 / 3 ウイルス性感染症の概要と臨床検査	<p>【授業の一般目標】 ウイルス性感染症について理解できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. HTLV-1感染について説明できる。 3. H SV感染について説明できる。 4. V Z V感染について説明できる。 5. 手足口病について説明できる。 6. ヘルパンギーナについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：炎症・感染症の概要が述べられる。感染症の種類を列挙できる。口腔領域に症状を示す感染症を挙げることができる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り（Webclassにて基準値教材を視聴すること）・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 頸・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 g ヘルパンギーナ</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。 C-4-2) 免疫 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。</p> <p>E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*續橋 治
2025/07/10 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 3 歯科医師国家試験に必要な臨床検査	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験に合格するために必要な臨床検査項目と疾患の関連を理解できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 貧血に関する検査を列挙できる。 3. 各種感染症に関する検査とその基準値を述べることができる。 4. 糖尿病に関する検査とその基準値を述べることができる。 5. 肝機能に関する検査とその基準値を述べることができる。 6. 輸血に関する検査を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：歯科医師国家試験において覚えておかなければならない（国家試験問題に基準値記載がされない）検査項目の基準値を述べることができるようにしておく。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p>	*深津 晶 *牧村 英樹 *田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/07/10 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 3 歯科医師国家試験に必要な臨床検査	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ①臨床検査の目的と適応を説明できる。 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 ④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。 ⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*深津 晶 *牧村 英樹 *田中 陽子
2025/07/17 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 4 感染症3 / 3 ウイルス性感染症について	<p>【授業の一般目標】 ウイルス感染症について理解できる</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. ウィルス性肝炎の種類を列挙できる 3. B・C型肝炎の病態を述べることができる 4. B・C型肝炎の臨床検査方法を説明することができる 5. B・C型肝炎の感染防止および消毒法を述べることができる 6. H I V感染症の病態を述べることができます 7. H I V感染症の臨床検査方法を説明することができる 8. H I V感染症の感染防止および消毒法を述べることができます 9. Epstein-Barrウイルス感染症の病態を述べることができます 10. Epstein-Barrウイルス感染症の臨床検査方法を説明することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：歯科領域に関連の深いウイルスを列挙できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 口腔症状を呈するウイルス感染症 a ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*續橋 治
2025/07/24 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学1 5 腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験出題基準に基づいた腫瘍マーカー、自己抗体およびそれに伴う自己免疫疾患について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 自己抗体の種類を述べることができる。 3. 自己抗体と疾患の関係を述べることができる。 4. 腫瘍マーカーの種類を述べることができる。 5. 腫瘍マーカーと疾患の関係を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	*福本 雅彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/07/24 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学15 腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：自己免疫疾患とは何か説明できる。 ・事前学修時間：約45分 ・事後学修項目：授業時に配布したプリントを復習する。 ・事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り (Webclassにて基準値教材を視聴すること) ・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 才 口腔症状を呈する自己免疫疾患 b 関節リウマチ</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 才 口腔症状を呈する自己免疫疾患 c 全身性エリテマトーデス（SLE）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-3) 臨床検査 ②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*福本 雅彦
2025/08/21 (木) 1時限 09:00~10:30	有病者歯科検査医学16 平常試験 解説講義	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 各種臨床検査項目を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 ・事前学修時間：約10時間 ・事後学修項目：試験で出題された内容を理解する。 ・事後学修時間：約30分 </p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 脳・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点</p>	*福本 雅彦 *深津 晶治 *續橋 英樹 *牧村 英樹

内科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	前学期	*秦 光賢（循環器・心臓血管外科学）

学修ユニット 学修目標 (G I O)	単位数：2単位 学習目標：歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
担当教員	*秦 光賢、*山口 秀紀、*中山 壽之
教科書	からだがみえる 第1版 合同監修 メディックメディア
参考図書	内科学 第12版 矢崎義雄、小室一成 朝倉書店 歯科医師のための内科学 千葉俊美、山田浩之 医歯薬出版株式会社 内科診断学 第3版 福井矢次、奈良信雄 医学書院
評価方法 (E V)	平常試験（多肢選択問題）によって評価点（100%）とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	すでに履修した生理学、生化学、病理学、解剖学などと系統立てて学習すると理解しやすい。 全人的医療という言葉が表わすように、患者さんを取り巻く社会的、生理的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するためにも幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つ時が来ますので、集中して受講してください。 内科・心臓血管外科オフィスアワー 午前9時ころから午後5時ころまで。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/10 (木) 2時間 10:40～12:10	内科系1 内科診断学1	<p>【授業の一般目標】 ショック、意識障害、血圧上昇・低下、動悸、息切れ、胸痛について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 循環器科学の基礎知識を身に着け、疾病について理解しその原因と治療について列挙できる。 2. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3. 症候に関連する検査データを踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：ショック、意識障害、血圧上昇・低下、動悸、息切れ、胸痛について説明できる。事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 120分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 エ 全身の診察 a 全身の外観（体格、栄養、姿勢、歩行） b 意識状態、精神状態、認知機能 c バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	*秦 光賢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/10（木） 2時限 10:40～12:10	内科系1 内科診断学1	C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。	*秦 光賢
2025/04/17（木） 2時限 10:40～12:10	内科学2 脳・神経・精神疾患	<p>【授業の一般目標】 脳神経の解剖について理解する。 運動・知覚の神経伝導路について理解する。 認知機能とその障害について理解する。 脳、神経、精神疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1.. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 運動・知覚の神経伝導路について説明できる。 3. 認知機能とその障害について説明できる。 4. 主な筋肉疾患について説明できる。 5.. 認知障害をきたす主な疾患について説明できる。 6. 主な脱髄疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：脳神経の解剖について説明できる。 運動・知覚の神経伝導路について説明できる。 認知機能とその障害について説明できる。 脳、神経、精神疾患について理解する。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覺機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。 ⑤脳血管の構造と分布及び機能的特徴を説明できる。</p>	*中山 智之 *秦 光賢
2025/04/24（木） 2時限 10:40～12:10	内科系3 内科診断学2	<p>【授業の一般目標】 発熱、全身倦怠感、呼吸困難、チアノーゼ、嚥下障害、誤嚥について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1.. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3. 症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：発熱、全身倦怠感、呼吸困難、チアノーゼ、嚥下障害、誤嚥について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分 ・準備学修時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p>	*中山 智之 *秦 光賢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/04/24 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系3 内科診断学2	<p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。</p>	*中山 壽之 *秦 光賢
2025/05/01 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系4 内科診断学3	<p>【授業の一般目標】 失神、けいれん、睡眠障害について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1..臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 3.症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：失神、けいれん、めまい、頭痛、睡眠障害について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	*秦 光賢
2025/05/15 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系5 生体機能検査（胸部エックス線写真、胸部CT検査、心電図、心臓超音波検査）	<p>【授業の一般目標】 胸部の解剖から胸部エックス線写真、胸部CT検査について理解する。 心臓の電気生理から心電図、心臓超音波検査について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1..臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2..胸部エックス線、胸部CT、心電図、心臓超音波検査について重要な 所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：胸部の解剖から胸部エックス線写真、胸部CT検査について説明できる。 心臓の電気生理から心電図、心臓超音波検査について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p>	*秦 光賢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/05/15 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系 5 生体機能検査（胸部エックス線写真、胸部CT検査、心電図、心臓超音波検査）	<p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覺器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覺器系〕 9 検査・臨床判断の基本 カ 画像検査 d エックス線撮影（口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影） e CT（単純、造影）、歯科用コーンビームCT</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ③診断並びに治療に必要な画像検査及び臨床検査を選択し、実施できる。</p>	*秦 光賢
2025/05/22 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系 6 内科診断学 4	<p>【授業の一般目標】 体重減少・増加、脱水、浮腫、黄疸、恶心、嘔吐、下痢について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 体重減少・増加、脱水、浮腫、黄疸、恶心、嘔吐、下痢について説明できる。 3. 体重減少・増加、脱水、浮腫、黄疸、恶心、嘔吐、下痢による症状と対応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：体重減少・増加、脱水、浮腫、黄疸、恶心、嘔吐、下痢について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうつ血の徵候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 C-5-6) 肿瘍 ②腫瘍の病因を説明できる。</p>	*中山 壽之 *秦 光賢
2025/05/29 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系 7 循環器疾患（1）	<p>【授業の一般目標】 循環器系の疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 循環動態、高血圧症、虚血性心疾患、感染性心内膜炎関連疾患について説明できる。 3. 弁膜症、心筋症について説明できる。 4. 心不全、動脈疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：循環器系の解剖、生理機能について説明できる。 循環器系の疾患について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/05/29 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系7 循環器疾患 (1)	<p>なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうつ血の徵候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀
2025/06/05 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系8 循環器疾患 (2)	<p>【授業の一般目標】 循環器系の解剖、生理機能について理解する。 循環器系の疾患について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1.. 循環動態、高血圧症、虚血性心疾患、感染性心内膜炎関連疾患について説明 できる。 2. 弁膜症、心筋症について説明できる。 3. 心不全、動脈疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：循環器系の解剖、生理機能について説明できる。 循環器系の疾患について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうつ血の徵候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀
2025/06/12 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系9 内分泌疾患	<p>【授業の一般目標】 内分泌器官の生理機能、および疾患についてを理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 副甲状腺疾患について説明できる。 3. 副腎疾患について説明できる。 4. 甲状腺疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：甲状腺疾患の病態について説明できる。 副甲状腺疾患の病態について説明できる。 副腎疾患の病態について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p>	*中山 壽之 *山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/06/12 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系9 内分泌疾患	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。</p>	*中山 善之 *山口 秀紀
2025/06/19 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系10 代謝疾患	<p>【授業の一般目標】 糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームについて理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームの病態について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 ②診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。 ④患者の訴え、また指導医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。 G-2 基本的診療法 ③診断並びに治療に必要な画像検査及び臨床検査を選択し、実施できる。</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀
2025/06/26 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系11 呼吸器疾患	<p>【授業の一般目標】 呼吸器系の解剖、生理機能について理解する。 呼吸器系の疾患について理解する。 睡眠時無呼吸症候群について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 呼吸器系の解剖、生理機能について説明できる。 2. 急性呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍について説明できる。 3. 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：各呼吸器疾患について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/06/26 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 1 呼吸器疾患	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>	*秦 光賢 *山口 秀紀
2025/07/03 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 2 肝臓疾患	<p>【授業の一般目標】 肝臓の機能について理解する。 ウイルス性肝炎について理解する。 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関係について理解する。 肝硬変、肝臓癌について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1.. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.. 肝臓の機能について説明できる。 3.. 肝機能を評価するための検査項目を説明できる。 4.. ウイルス性肝炎について説明できる。 5.. 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関連について説明できる。 6.. 肝硬変、肝臓癌について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：肝臓の機能について説明できる。 肝機能を評価するための検査項目を説明できる。 ウイルス性肝炎について説明できる。 脂肪肝とメタボリックシンドロームの関連について説明できる。 肝硬変、肝臓癌について説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>・準備学修時間： 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 ③脾臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。</p>	*中山 壽之 *山口 秀紀
2025/07/10 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 3 腎・泌尿器疾患	<p>【授業の一般目標】 腎臓の解剖、生理機能について理解する。 腎臓疾患について理解する。 泌尿器疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1.. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.. 肾臓の機能を説明できる。 3.. 急性・慢性腎不全を説明できる。 4.. 主な腎臓疾患を説明できる。 5.. 主な泌尿器疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：腎臓の解剖、生理機能について説明できる。 急性・慢性腎不全について説明できる。主な腎臓疾患を説明できる。 主な泌尿器疾患を説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。</p>	*秦 光賢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/07/10 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 3 腎・泌尿器疾患	<p>事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修時間： 90分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。</p>	*秦 光賢
2025/07/17 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 4 消化器疾患	<p>【授業の一般目標】 消化器疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 消化器官の生理機能、解剖について説明できる。 3. 消化器系の疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：消化器官の解剖、生理機能について説明できる。 主な消化器疾患を説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修時間： 90分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 ③脾臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。</p>	*中山 壽之 *山口 秀紀
2025/07/24 (木) 2時限 10:40~12:10	内科系1 5 膠原病・アレルギー疾患	<p>【授業の一般目標】 アレルギー疾患の病態を理解する。 膠原病の病態について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 薬物アレルギーについて説明できる。 3. 金属アレルギーについて説明できる。 4. アレルギーと歯科治療との関連について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：アレルギー疾患の病態を説明できる。 SLE、慢性関節リウマチについて説明できる。 事前学修項目：生理、解剖、病理を確認すること。 事前学修時間：25分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p>	*中山 壽之 *秦 光賢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/07/24 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系15 膠原病・アレルギー疾患	<ul style="list-style-type: none"> 準備学修時間： 90分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、恶心、嘔吐、下痢 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 	*中山壽之 *秦光賢
2025/08/21 (木) 2時間 10:40~12:10	内科系16 平常試験 解説講義	<p>【授業の一般目標】 客観問題を中心に出題する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1..臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.多肢選択問題に解答する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 •準備学修項目：平常試験 •事前学修項目：これまでの講義内容を理解する。 •事前学修時間：約2時間 •事後学修項目：試験で出題された内容を理解する。 •事後学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*秦光賢 *山口秀紀 *中山壽之

隣接医学系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	後学期	*内田 貴之 (歯科総合診療学)

学修ユニット 学修目標 (G I O)	医療行動科学4の前学期の座学で学んだ患者中心の医療の知識を実際の臨床場面で応用し、全般的医療を展開するために、医療行動科学4の後期日程と合わせ、以下の基本的臨床技能を臨床実習に向けて修得を目指します。 ・ 良好的な患者ー歯科医師関係を築くためのコミュニケーションの重要性を深く理解し、その技術を修得します。 ・ 個々の患者に最適な歯科医療を提供するために、患者を全般的な観点から捉えた治療計画を立案する方法を学びます。 ・ 歯科医療におけるチームワークの重要性を理解し、学生間の協力を通じて患者中心の医療を実践する能力を養います。
	担当教員 *内田 貴之、*青木 伸一郎、*岡本 康裕、*遠藤 弘康、*梶本 真澄、※*岩橋 謙
教科書	なし なし なし
参考図書	歯科医療面接アートとサイエンス 伊藤孝訓編著 砂書房
評価方法 (E V)	医療行動科学4の後期の評価方法に順じて、授業時間内に行う平常試験および都度行う小テスト(60%)、制作物・学修レポート等の提出物(30%)、受講態度(10%)をもって総合評価(最終評価)する。総合評価の結果に応じて再試験等の措置を講じることがある。受講態度は出席することが前提として与えられ、講義・演習への参加の積極性を評価対象とする。授業時間数の1/5以上を欠席した場合の成績評価は0~60点とする。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/09 (火) 3時限 13:10~14:40	【ガイダンス】 TBL, ポートフォリオ、POMR 問題点の抽出	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために、医療行動科学に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 実習、演習のねらい（学修目標）を説明できる。 TBLについて説明できる。 ポートフォリオについて説明できる。 問題志向型診療録について説明できる。 情報を自ら収集、分析し問題点を探すことができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 事前学修時間：約30分 事後学修項目：Google DriveにアップしたPDFデータを振り返る。 事後学修時間：約30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし・パワーポイント・Google Driveにアップした資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ①歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。</p> <p>A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ③病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴等）を説明できる。</p> <p>F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。</p>	*内田 貴之 *岡本 康裕
2025/09/16 (火) 3時限	問題志向型診療録 (1) 問題点の抽	【授業の一般目標】 問題志向型診療録：全人的歯科医療を実践するために、問題志向型診療録に関	*内田 貴之 *青木 伸一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
13:10~14:40	出、整理1-①（個人）	<p>する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 医療面接に適した態度で初診患者に対応した医療面接ができる。 医療面接で用いる言語的・非言語的コミュニケーションスキルが表現できる。 模擬患者さんに対する配慮ができる。 POMR（問題志向型診療録）の記載項目をあげて、各々の意義を説明できる。 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 POS の形式に則った情報を整理できる。 問題点の抽出を行い、問題リストをまとめることができる。 現症所見から正常、異常を判断できる。 臨床診断名を決定した理由を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 準備学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器 有：グループディスカッションを行う。ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項</p> <p>8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record < POMR >)を説明できる</p> <p>F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-1 診察の基本 F-1-1) 口腔内の診察・記録 ②患者情報から必要な診察、検査を説明できる。 ③高頻度歯科疾患を診断し、その治療方針・治療計画を立案できる。 ④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>)で診療録を作成できる。</p> <p>F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。</p>	<p>*岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次</p>
2025/09/30（火） 3時限 13:10~14:40	問題志向型診療録 (3) 治療方針の立案1-①（説明）	<p>【授業の一般目標】 問題志向型診療録：全人の歯科医療を実践するために、問題志向型診療録に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 医療面接に適した態度で初診患者に対応した医療面接ができる。 医療面接で用いる言語的・非言語的コミュニケーションスキルが表現できる。 模擬患者さんに対する配慮ができる。 各疾患に対して適切な治療方針を立案できる。 一口腔単位を考慮した治療方針を立案できる。 治療方針の立案の根拠を説明できる。 診断名を決定した根拠を説明できる。 治療方針に従った治療順序を列举できる。 基本的な患者教育の内容を立案できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 準備学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 事後学修時間：30分 	<p>*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/09/30 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (3) 治療方針の立案1-① (説明)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有: ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器 有: グループディスカッションを行う。ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 ③病歴聴取 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴等) を説明できる。 ⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record <POMR>)を説明できる F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-1 診察の基本 F-1-1) 口腔内の診察・記録 ④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>)で診療録を作成できる。 ⑦口腔と医科疾患との関連について説明することができる。 F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴) を聴取できる。 G 臨床実習 G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 ①歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 諒 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 享 大山 和次
2025/10/07 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (5) 治療方針の立案1-③ (チーム)	<p>【授業の一般目標】 問題志向型診療録: 全人の歯科医療を実践するために、問題志向型診療録に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療面接に適した態度で初診患者に対応した医療面接ができる。 3. 医療面接で用いる言語的・非言語的コミュニケーションスキルが表現できる。 4. 模擬患者さんに対する配慮ができる。 5. 各疾患に対して適切な治療方針を立案できる。 6. 一口腔単位を考慮した治療方針を立案できる。 7. 治療方針の立案の根拠を説明できる。 8. 診断名を決定した根拠を説明できる。 9. 治療方針に従った治療順序を列挙できる。 10. 基本的な患者教育の内容を立案できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 ・準備学修時間: 30分 ・事後学修項目: 授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有: ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器 有: グループディスカッションを行う。ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 諒 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 享 大山 和次

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/07 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (5) 治療方針の立案1-③ (チーム)	<p>a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>A-4 コミュニケーション能力</p> <p>A-4-1) コミュニケーション</p> <p>①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-1) 診察の基本</p> <p>①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。</p> <p>③病歴聴取 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴等) を説明できる。</p> <p>⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record <POMR>)を説明できる</p> <p>F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習))</p> <p>F-1 診察の基本</p> <p>F-1-1) 口腔内の診察・記録</p> <p>④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>)で診療録を作成できる。</p> <p>⑦口腔と医科疾患との関連について説明することができる。</p> <p>F-2 基本的診察法</p> <p>F-2-1) 医療面接</p> <p>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。</p> <p>②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>③患者の病歴 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴) を聴取できる。</p> <p>G 臨床実習</p> <p>G-1 診療の基本</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>①歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。</p>	<p>*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次</p>
2025/10/14 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (7) 問題点の抽出、整理2-② (チーム)	<p>【授業の一般目標】</p> <p>問題志向型診療録：全人的歯科医療を実践するために、問題志向型診療録に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療面接に適した態度で初診患者に対応した医療面接ができる。 3. 医療面接で用いる言語的・非言語的コミュニケーションスキルが表現できる。 4. 模擬患者さんに対する配慮ができる。 5. POMR (問題志向型診療録) の記載項目をあげて、各々の意義を説明できる。 6. 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 7. POS の形式に則った情報を整理できる。 8. 問題点の抽出を行い、問題リストをまとめることができる。 9. 現症所見から正常、異常を判断できる。 10. 臨床診断名を決定した理由を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：シラバスを確認し、S B O s の項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器</p> <p>有：グループディスカッションを行う。ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】</p> <p>演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>8 診察の基本</p> <p>ウ 医療面接</p> <p>a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>A-3 診療技能と患者ケア</p> <p>①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。</p> <p>A-4 コミュニケーション能力</p> <p>A-4-1) コミュニケーション</p> <p>①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。</p> <p>③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-1) 診察の基本</p> <p>①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。</p> <p>⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record <POMR>)を説明できる</p>	<p>*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/14 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (7) 問題点の抽出、整理2-② (チーム)	F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-1 診察の基本 F-1-1 口腔内の診察・記録 ②患者情報から必要な診察、検査を説明できる。 ③高頻度歯科疾患を診断し、その治療方針・治療計画を立案できる。 ④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan(SOAP))で診療録を作成できる。 F-2 基本的診察法 F-2-1 医療面接 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/10/21 (火) 3時間 13:10~14:40	問題志向型診療録 (9) 治療方針の立案2-②	【授業の一般目標】 問題志向型診療録：全人の歯科医療を実践するために、問題志向型診療録に関する知識を習得する。 【行動目標（S B O s）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療面接に適した態度で初診患者に対応した医療面接ができる。 3. 医療面接で用いる言語的・非言語的コミュニケーションスキルが表現できる。 4. 模擬患者さんに対する配慮ができる。 5. 各疾患に対して適切な治療方針を立案できる。 6. 一口腔単位を考慮した治療方針を立案できる。 7. 治療方針の立案の根拠を説明できる。 8. 診断名を決定した根拠を説明できる。 9. 治療方針に従った治療順序を列举できる。 10. 基本的な患者教育の内容を立案できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器 有：グループディスカッションを行う。ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料 【学修方略（L S）】 演習 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加） 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列举できる。 ③病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴等）を説明できる。 ⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record <POMR>)を説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-1 診察の基本 F-1-1) 口腔内の診察・記録 ④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan(SOAP))で診療録を作成できる。 ⑦口腔と医科疾患との関連について説明することができる。 F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 ①歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/10/28 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (2) 評価シート、評価マニュアルの作成 (2) (チーム)	【授業の一般目標】 医療面接：全人の歯科医療を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/10/28 (火) 3時限 13:10~14:40	医療面接 (2) 評価シート、評価マニュアルの作成② (チーム)	<p>【行動目標 (S B O s)】</p> <p>1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」</p> <p>2. 医療面接の目的を説明できる。</p> <p>3. 医療面接の流れを説明できる。</p> <p>4. 医療面接に必要な態度、マナーを説明できる。</p> <p>5. 患者中心の歯科医療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 医療面接の評価項目について復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：グループディスカッションをする。 ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/11/11 (火) 3時限 13:10~14:40	医療面接 (4) ビデオ撮影・ロールプレイ演習 (1)	<p>【授業の一般目標】 医療面接：全人的歯科医療を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <p>1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」</p> <p>2. 初診患者に対応した医療面接ができる。</p> <p>3. 医療面接に適した態度ができる。</p> <p>4. 医療面接で用いるコミュニケーションスキルが表現できる。</p> <p>5. 医療面接で用いる非言語的コミュニケーションを表現できる。</p> <p>6. 模擬患者さんに対する配慮ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/11 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (4) ビデオ撮影・ロールプレイ演習 (1)	<p>ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー (身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応) d 聴取事項 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望) e 患者への説明・声かけ・例示</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/11/18 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (6) 「医療面接のReflection」	<p>【授業の一般目標】 医療面接：全人的歯科医療を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療面接に適した態度を分析できる。 3. 医療面接 (SP演習) で使用された質問法を分析できる。 4. 医療面接 (SP演習) で使用された言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 5. 医療面接 (SP演習) で使用された非言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 6. 医療面接 (SP演習) の歯科疾患の臨床推論を分析できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 振り返りの仕方についてネット等で調べ自習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：グループディスカッションをする。 ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 サ 診療録、診療情報の記録と管理 a 診療に関する記録（診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、歯科技工指示書、模型）の管理・保存 b SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画） 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー (身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応)</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/18 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (6) 「医療面接のReflection」	<p>A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。</p> <p>A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。</p> <p>A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。</p> <p>F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））</p> <p>F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。</p> <p>G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/11/25 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (8) ビデオ撮影・ロールプレイ演習 (3)	<p>【授業の一般目標】 医療面接：全人的歯科医療を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 初診患者に対応した医療面接ができる。 3. 医療面接に適した態度ができる。 4. 医療面接で用いるコミュニケーションスキルが表現できる。 5. 医療面接で用いる非言語的コミュニケーションを表現できる。 6. 模擬患者さんに対する配慮ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応） a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加） b 自己紹介、患者の確認 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応） d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望） e 患者への説明・声かけ・示示</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。</p> <p>A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。</p> <p>A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。</p> <p>F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/11/25 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (8) ビデオ撮影・ロールプレイ演習 (3)	<p>F-2 基本的診察法 F-2-1 医療面接</p> <p>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。</p> <p>G 臨床実習 G-2 基本的診療法</p> <p>①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 正宏 森 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/12/02 (火) 3時間 13:10~14:40	医療面接 (10) 「医療面接のReflection」	<p>【授業の一般目標】 医療面接：全人的歯科医療を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療面接に適した態度を分析できる。 3. 医療面接（SP演習）で使用された質問法を分析できる。 4. 医療面接（SP演習）で使用された言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 5. 医療面接（SP演習）で使用された非言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 6. 医療面接（SP演習）の歯科疾患の臨床推論を分析できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。 振り返りの仕方についてネット等で調べ自習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：グループディスカッションをする。 ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 サ 診療録、診療情報の記録と管理 a 診療に関する記録（診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、歯科技工指示書、模型）の管理・保存 b SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画） 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 正宏 森 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/12/09 (火)	医療面接 (12) ビ	【授業の一般目標】	*内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
3時限 13:10~14:40	デオ撮影・ロール プレイ演習 (5)	<p>医療面接：全人的歯科医疗を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 初診患者に対応した医療面接ができる。 医療面接に適した態度ができる。 医療面接で用いるコミュニケーションスキルが表現できる。 医療面接で用いる非言語的コミュニケーションを表現できる。 模擬患者さんに対する配慮ができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 会話のトレーニングの重要性をネット等で調べ自習する。 問題志向型医療(POS)について復習する。 準備学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ロールプレイ、ケーススタディ、振り返り・実習書（配布）、症例ケース資料、診療ユニット、撮影機器</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応） d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望） e 患者への説明・声かけ・例示</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 森 邦彦 永井 光豊 船越 亨 須永 大山 和次
2025/12/16 (火) 3時限 13:10~14:40	医療面接 (14) 「医療面接のReflection」	<p>【授業の一般目標】 医療面接：全人的歯科医疗を実践するために、医療面接の行動評価に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 医療面接に適した態度を分析できる。 医療面接（SP演習）で使用された質問法を分析できる。 医療面接（SP演習）で使用された言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 医療面接（SP演習）で使用された非言語的コミュニケーションスキルを分析できる。 医療面接（SP演習）の歯科疾患の臨床推論を分析できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備学修項目：シラバスを確認し、SB0sの項目を調べる。 振り返りの仕方についてネット等で調べ自習する。 準備学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 事後学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直諒 *岩橋 森 正宏 森 邦彦 永井 光豊 船越 亨 須永 大山 和次

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/16 (火) 3時限 13:10~14:40	医療面接 (14) 「医療面接のReflection」	<p>有：グループディスカッションをする。 ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 サ 診療録、診療情報の記録と管理 a 診療に関する記録（診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、歯科技工指示書、模型）の管理・保存 b SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画） 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）） F-2 基本的診察法 F-2-1) 医療面接 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*内田 貴之 *青木 伸一郎 *岡本 康裕 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香 大沢 聖子 鈴木 義孝 *桃原 直 *岩橋 誠 森 正宏 永井 邦彦 船越 光豊 須永 亨 大山 和次
2025/12/23 (火) 3時限 13:10~14:40	症候学 (1) う蝕	<p>【授業の一般目標】 う蝕の病態、治療法に対する知識を整理するために、う蝕の病因、病態および治療方法の流れを理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. う蝕の症状と特徴を説明できる。 3. う蝕における痛みの原因を説明できる。 4. う蝕の進行状況を説明できる。 5. う蝕の進行状況に合わせた治療方法を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：なし ・準備学修時間：なし ・事後学修項目：講義当日中に授業配布資料を振り返り、講義内容を確実に理解する。 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・パワーポイント、講義内容のプリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齧蝕の病因</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患</p>	*梶本 真澄 *内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/12/23 (火) 3時間 13:10～14:40	症候学 (1) う蝕	<p>ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 d 象牙質知覚過敏症 b 初期齲歎の診断 a 直接修復法 b 間接修復法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齲歎その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ①齲歎その他の歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の症状、検査法、診断及び処置法 (再石灰化療法を含む) を説明できる。</p>	*梶本 真澄 *内田 貴之
2026/01/13 (火) 3時間 13:10～14:40	症候学 (3) 根尖性歯周炎	<p>【授業の一般目標】 根尖性歯周炎の病態、治療法に対する知識を整理するために、う蝕の病因、病態および治療方法の流れを理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 根尖性歯周炎の症状と特徴を説明できる。 3. 根尖性歯周炎における痛みの原因を説明できる。 4. 根尖性歯周炎の進行状況を説明できる。 5. 根尖性歯周炎の治療の流れを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：なし ・準備学修時間：なし ・事後学修項目：講義当日中に授業配布資料を振り返り、講義内容を確実に理解する。 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・パワーポイント、講義内容のプリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患・根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因と病態 b 根尖性歯周疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患・根尖性歯周疾患 イ 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の治療 c 根尖性歯周疾患の治療 d 根管処置 e 根管充填</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療 ①歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法 (直接覆髓法を含む) を説明できる (疾患の細胞レベルでの説明を含む)。 ④歯髄・根尖性歯周疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。</p>	*岡本 康裕
2026/01/20 (火) 3時間 13:10～14:40	平常試験 (3)	<p>【授業の一般目標】 客観問題を中心に出題する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1.1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 授業の知識習得を確認できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：試験範囲 事前学修時間：30分 事後学修項目：試験の解説 事後学修時間：15分。</p> <p>【学修方略 (L S)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p>	*内田 貴之 *遠藤 弘康 *梶本 真澄 *前田 紀香